

## 令和7年度 第3回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和8年2月9日（月）午前10時～

【場 所】 豊田市役所 南51会議室（南庁舎5階）

【出席者】 （委員） 伊藤 央二 （中京大学スポーツ科学部 教授）《会長》  
粕谷 浩二 （（公財）豊田市スポーツ協会 常務理事）《副会長》  
伊藤 宏志 （愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長）  
梅村 郁仁 （（株）名古屋グランパスエイト 広報・ホームタウン部 部長）  
太田 明李 （公募委員）  
清水 弥生 （（一社）豊田市身障協会 副会長）  
杉本 由香里 （豊田市女性スポーツ団体協議会 副会長）  
手嶋 道雄 （豊田市スポーツ少年団 本部長）  
西脇 委千弘 （（株）豊田スタジアム 取締役）  
野尻 雅代 （公募委員）  
築瀬 歩 （地域スポーツクラブ会議 代表幹事）

【事務局】 塚田 知宏（魅力創造部副部長） 中野 洋介（スポーツ振興課課長）  
鷹見 英志（スポーツ振興課副課長） 秋山 宏旭（ラリーまちづくり推進課副課長）  
榎津 祐樹（スポーツ振興課担当長） 藤村 修祐（スポーツ振興課担当長）  
宇佐美 雅也（スポーツ振興課担当長） 沢田 浩明（学び体験推進課担当長）  
長谷川 眞子（スポーツ振興課主査） 北田 青空（スポーツ振興課主事）

【傍聴人】 なし

【次 第】 1 会長挨拶

2 議題  
（1）第5次豊田市生涯スポーツプラン（素案）について  
（2）部活動の地域展開ガイドラインの作成について（報告）  
（3）ラリージャパンについて（報告）

3 その他

## 【会議録】

### ■会長挨拶

会 長：2年前に始まった第5次豊田市生涯スポーツプランの検討も本審議会ですべて最後となる。引き続き積極的なご意見をいただければと思う。

### ■議題（1）第5次豊田市生涯スポーツプラン（素案）について

事務局：資料に基づき、第5次豊田市生涯スポーツプラン（素案）について説明

会 長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：部活動の地域展開によって立ち上がる「地域クラブ活動」と中学校区ごとに市民の生涯スポーツ活動を支えている「地域スポーツクラブ」がある。この両者の名前が紛らわしく同一のものだと思われる。地域スポーツクラブが、部活動の地域展開を主導していると誤解を招いているため、両者を区別できるような名前に変更していただきたい。

事務局：部活動の地域展開によって立ち上がる「地域クラブ活動」は国が定めている名称のため、変更することが難しい。ただし、豊田市では昨年「とよた地域クラブ活動」の愛称募集を行い、「とよクラ」と名付けた。まだ浸透させることは出来ていないが、今後更に周地活動を行い「とよクラ」の名称が浸透していくように努めていく。

委 員：パブリックコメント等を丁寧に反映いただき感謝する。前回の審議会の中でも、eスポーツの位置づけが議論されていた。資料1-4の41ページ「【取組みの方向性②】高齢者のスポーツ機会の創出」にeスポーツが含まれている。また、資料1-4の26ページに「スポーツの定義」が記載されており、ウォーキングやストレッチなど具体的な活動の記載があるため、ここにeスポーツも追記してみてもどうか。

事務局：ご指摘のとおり追記する。

副会長：今後、第5次生涯スポーツプランの本編及び概要版の図書が出来てくると思う。完成した物を市民へ周知することが重要になってくると思うが、どのように周知を図っていくのか教えていただきたい。

事務局：パブリックコメントの実施の際に、本編が70ページほどあり読むのが大変という意見があった。そのため、概要版を作成しスポーツ施設への配架を行うことを考えている。また、市のホームページや広報誌での周知をしていくことも考えている。

委員：資料1-2の1ページ目にパブリックコメントの概要があるが、その中で令和7年12月9日（火）～令和8年1月9日（金）に行われたパブリックコメントの提出者が、Eモニター182人に比べ3人とかなり少ない数字となっている。何故これほどまでに少ないのか。

事務局：Eモニターもパブリックコメントの一環として意見をいただいております、様々な立場から多くの意見がいただけた。一方で、12月に実施したパブリックコメントは、広く市民に向けて行ったが行政計画への意見募集ということもあり、多くの回答を得るには至らなかった。

委員：市民の意見を聴取するにあたり、3件では少ない。市民が回答しやすい方法で意見聴取をする必要がある。

委員：先日、地域スポーツクラブの幹事会が行われた。その際に、「旧市内と旧町村ではスポーツの実施状況に違いがある。」という意見があった。例えば、崇化館中学校区には地域スポーツクラブは立ち上がっていないが、朝日丘スポーツクラブや梅坪・浄水スポーツクラブの教室事業に参加しているという例は既にある。つまり旧市内では市民の方々が越境して、他地区のスポーツクラブに参加している状況である。一方で旧町村では、スポーツクラブが該当地域へ赴き教室事業を行う必要がある。資料1-2の51ページの評価指標の箇所、「地域スポーツクラブの活動中学校区数」を増やすとしているが、旧市内では既に多くの方が地域の垣根を超えて、他地区のスポーツクラブの教室事業に参加していることから、一概にスポーツクラブの数を増やしていくことが解決にはならないと考えている。この指標の作り方を今一度検討していただきたいと思う。

事務局：検討させていただく。

事務局：議題とは直接関係ないが、前回、前々回の審議会で御指摘いただいた市内体育施設の空調設備設置の進捗状況について報告する。予算については、議会にて承認を得られた。現在は業者の選定を行っており、今後設計に着手していく。設置個所については、豊田市内のスポーツが出来る体育館・武道場17施設。令和8年の夏までに設計し、令和9年の6月までに工事完了を目指し動き出している。

会長：空調については、度々審議会の中でも議論になっていたが、設置について前向きに進んでいることが知れて安心した。

委員：空調設備のことで1点ご教授いただきたい。現在、市内体育館の使用の実態として、体育館全てを1つの競技団体が使用するのではなく、体育館をいくつかの区画に分割して様々な競技団体が同じ時間に使用してる状態である。バドミントン等、風に左右される様なスポーツは、空調の設置が不利に働く可能性もある。空調を稼働させる場合は、体育館全てに風を送るようにするのか、使用している区画ごとに風を送るようにするのかを教えていただきたい。

事務局：具体的にどのように運用をしていくのか詳細はまだ決まっていない。1つの体育館に同じ時間帯で別々の団体が使用する場合は、当事者間で調整いただくことも想定される。また、夏場に関しては金銭的な理由で体育館を使用しない市民が出ることも考えられる。そうしたことも含め総合的に利用料金等の見直しを検討していく。

委員：来年度は、アジア・アジアパラ競技大会が開催されるが、第5次豊田市生涯スポーツプランの指標を達成していくために、支障となるようなことはないのか。例えば、市子連でのフットサル大会を開催していくにあたり会場の確保が難しいなどの問題が発生している。市子連という小さな組織ですら会場の確保が難しくなっている中で、より大きな組織の大会等は会場の確保などにどのような影響を及ぼすのか。

事務局：アジア・アジアパラ競技大会の大会期間である令和8年7月～11月までは、スカイホール豊田が使用できなくなる。各種競技団体には1年前に施設使用の予約申請があるためその際に、事前に使用できない旨を告知する。豊田市ではスポーツ施設の利用調整を申請1件ずつに目を通し調整を行っている。各種競技団体の活動等に支障が出ないように市内の施設を余すことなく活用し調整を行っている。

また、資料1-4の48ページにある「基本施策6 地域活性化に効果的なスポーツツーリズムの推進」について、様々な大会を開催し地域の活性化を図っていきたいと考えている。現在でも豊田スタジアムでは、名古屋グランパスの試合などの開催、スカイホール豊田では、全国大会規模の大会が高頻度で行われている。令和8年度以降もこういった大会の誘致は行っていくが、アジア競技大会規模の大会は今後しばらく豊田市では開催されないと予想している。今回のアジア競技大会は長期間に渡り施設を抑えてしまうため、各種競技団体にかなり負担をかけてしまっている。令和8年度以降で、アジア大会規模の大会が開催される場合は、各種競技団体の利用希望に沿ってできるだけ負担にならないような調整を行っていく。

また、令和8年の9月に豊田スタジアム東側に「スポーツパーク」を開場するため、そういった施設も活用していきたい。

会 長：私は愛知県のスポーツ基本計画策定にも携わらせていただいている。自県開催ということもあり、愛知県はアジア・アジアパラ競技大会を前面に推進していこうとしている。第5次豊田市生涯スポーツプランの概要版にて、アジア・アジアパラ競技大会に触れている箇所がない。大きな大会に左右されずに計画の推進をすることは重要ではあるが、豊田市内で会場としてアジア・アジアパラ競技大会が開催されるのであれば、関連する文言を概要版に記載してはどうか。アジア・アジアパラ競技大会が開催されたことにより豊田市のスポーツ振興あるいは市民にどのように還元をされたかが分かるようになっていっているとアジア大会の支障というイメージが和らぐのではないかと感じた。

会 長：議題1について、その他の意見がない場合は委員の皆様にご確認をさせていただきたい。冒頭にもお伝えしたとおり、第5次プランの策定に向けて2年前よりご意見をいただけた。委員の皆様のご意見を反映しながら内容の充実したとても良いプランが出来上がったと感じている。改めて感謝申し上げます。事務局には本審議会で出た意見を元にプランの修正を行っていただく。今後プランの策定についてはまとめて意見を出す場を設けることは難しいため、この場で意義が無ければ修正後のプランの確認を会長である私に一任いただきたいがいかがか。

委員一同：異議なし

会 長：異議がなかったため、私が責任を持って確認させていただく。

## ■ 議題（2）部活動の地域展開のガイドラインの作成について（報告）

事務局：資料に基づき、部活動の地域展開ガイドラインについて説明

会 長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：資料2の6ページにて、「定期テスト週間等の「活動を行わない日」を適切に設定する。」とあるが、その運用で本当に問題がないか。例えば、アメリカのある州では、毎日1時間目に体育の授業を行った学校の方が、学力が高いという報告がある。テスト期間に運動をしてはいけないと制限を設けるのではなく、こどもたちが自分たちの意思で活動への参加を判断できることを強調していくべきと考える。特定の期間にやらないことを謳ってしまうと、活動に参加しないこどもが増えてしまうのではないかと感じた。

事務局：本市は、部活動の地域展開に際し、部活動をそのまま移行する方式を採用したため、子どもたちの混乱を避けるためにも、まずはこの形で運用したいと考えている。ただし、とよた地域クラブ活動の展開プランにおいても、令和10年度に見直しを行うとしているため、必要があればその際に見直す。

もう1点、資料2の3ページ目にも記載をしているが、とよた地域クラブ活動は子どもたちの自主的・自発的な活動という点を重要視している。その中で、複数の種目を選択できるように制度を設計しているため、1つの種目に毎回参加できない子どもが出てくると想定している。つまり毎回練習に参加してもらうことを前提としていないため、指導者にもこの点を理解いただいた上で、指導に当たってもらうよう理解を促していく。

会長：委員の言われるとおり、最初から制限を設けるよりも子どもの自主性に委ねるようにした方がとよた地域クラブ活動の趣旨には合ってくるように感じた。

委員：新しい活動を始めていくにあたり、様々な配慮をしながらガイドラインを作成したことは理解しているが、本ガイドラインは正直分かりづらいと感じた。この事業には、子ども、保護者、学校、地域、という様々な主体が存在しているが、本ガイドラインではそれぞれの主体の役割が混在して表現されてしまっているため分かりづらいと感じた。それぞれの主体に向けたものを作成した上で公表をしていくことが重要だと思う。

事務局：読み手にとって分かりやすさは重要であるため、今後、主体別の概要版等を作成し、冊子とは別に公表する。当ガイドラインの冊子は、冊子として必要であるためこの形で計画どおり公表する。

### ■ 議題（3）ラリージャパンについて（報告）

事務局：資料に基づき、ラリージャパンについて説明

会長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委員：資料3の23ページにある、KPIの推移の中にある「観光入込客数」とはどのような数字なのか。

事務局：「観光入込客数」とは、市内の主な集客施設における集客数の合計を指している。例えば鞍ヶ池公園や豊田スタジアムの集客数など、年間を通じて豊田市にどれくらいの観光客が来ているかを示す数字である。集客数を向上させる1つの手段としてラリージャパンがある。

委員：愛知県、岐阜県以外の県外からの観光客はどれくらい来ているのか。

事務局：2025年大会については、合計で53万600人の観光客が豊田市に来ていた。感覚的な数字だが、アンケートの結果から県外からの観光客、県内他市からの観光客、市内の観光客がそれぞれ3分の1ずつとなっている。

委員：先ほど会長もおっしゃっていたが、ラリージャパンはもちろんのことアジア・アジアパラ競技大会のような大規模な大会が豊田市のスポーツ振興にどのような影響をもたらすのか考えていく必要があると感じた。資料等を拝見しあまりアジア・アジアパラ競技大会を活用する視点がないように思う。

事務局：先日アジア・アジアパラ競技大会の実行委員会を立ち上げた。アジア大会を通じて、スポーツの振興及び子どもたちの運動・スポーツの体験機会を創出し多くの経験や感動を味わってもらいたいと考えている。現在観戦の希望調査等を行っており、今後市内の子ども達に向けて観戦招待を行っていくことも視野に入れている。また、アジアパラ競技大会も開催される。豊田市は、パラ卓球及びパラ射撃の会場となっており、障がい者スポーツについてもこれまで以上に焦点を当てて振興を図っていくいい機会だと捉えている。プランの中にも記載をしたが、障がい者スポーツの推進を図るため、障がい者競技用補装具等補助金制度の制定や障がい者の施設に赴いてスポーツの体験機会を創出することなども行っていく。また体全体を動かすことが難しい方に向け、eスポーツを活用した事業を行い、スポーツへの興味関心を高めていくことも考えている。

委員：こどもの時期にも大切だが、大人になってからもスポーツに触れるということはとても大切なことだと考えている。豊田市は国と比べて、障がい者のスポーツ実施率が低い状態にある。アジア・アジアパラ競技大会のような大規模な大会を通じて、スポーツ振興が図っていけるのではないかと期待している。

会長：ラリージャパンが開催された際にその後の継続場所として、子どもがモータースポーツを行えるような場所はあるのか。ラリージャパンの開催によってどのようなスポーツ振興に繋がっているのかを教えて欲しい。

事務局：ラリージャパンのサービスパークとなっている豊田スタジアムでは、石野サーキットと連携しラリーに関するeスポーツの体験や、ラリーカー及び選手に触れる機会等を創出している。直接の案内は行っていないが、石野サーキットでは搭乗体験を実施しており、その誘客にもつながっているのではないかと考える。

会長：石野地区サーキット場の来場者数等もカウントできるとスポーツ振興にどのように繋がったかが分かるかもしれない。

事務局：ラリージャパンのもう一つの狙いとして車を好きになってもらうという狙いもある。車に関心を持った子どもたちが、より専門的なものづくり体験ができるように「丘 KOBA プロジェクト」という自動車関連企業と連携した、ものづくり体験機会も創出している。

## ■その他

会 長：スポーツ庁・文化庁・観光庁が行っている、スポーツ・文化ツーリズムアワードがある。今年は、鈴鹿市の F1 日本グランプリが受賞した。スポーツイベントの中で行われた脱炭素化の取組が評価され受賞した。豊田市でも脱炭素化の取組をしているため、是非申請いただきたい。

事務局：11月にスポーツ庁のスポまち表彰に応募し、優良自治体表彰を受賞した。子どもを対象とした名古屋グランパスやトヨタヴェルブリッツとの連携事業が評価され表彰に至った。また、スポーツ庁のスポーツアワードにも応募をしており、今年度から地域スポーツクラブと連携して行っている「こどもの運動遊び教室」が表彰の対象として内定をいただいた。

事務局：今年度最後の審議会となるため、改めてお礼を申し上げる。今年度3回にわたり様々なご意見をいただいた。委員の皆様のご助言をいただき、中身の濃い計画策定となっている。今回の計画を指針として引き続き様々な取組を行っていく。市内の体育館に空調を設置する等スポーツを「する」面の充実を図りながら、プラン上にもある「誰もが生涯にわたり、スポーツに親しみ、スポーツで人と人とがつながるまちとよた」を目指し事業を推進していく。

また、令和8年2月13日の金曜日に豊田市の予算案を市長会見にて公表する。主にはアジア・アジアパラ競技大会関連の事業が多く取り上げられると予想しているが、本プランの取組指標が達成されるように、各種事業の予算を盛り込んでいるため皆様にはご承知おきいただきたい。

以上